

マコガレイ種苗の放流について

マコガレイは、茨城県沿岸における重要な漁獲対象資源です。主に底曳網、はえ縄、固定式刺し網で漁獲され、平成26年以降は9～54トンが水揚げされています。

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗(稚魚・稚貝)を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を実施しています。マコガレイについては、「第7次栽培漁業基本計画」の対象魚種として、毎年20万尾の生産・放流を目標に取り組んでいます。水産試験場では、適切な放流の手法や効果について検討するため、試験放流を行っています。

マコガレイの種苗生産

マコガレイの種苗は、鹿嶋市に所在する茨城県栽培漁業センターで生産されています(図1)。今回は1月から2月に人工採卵を行い、4月下旬に全長16～55mm(平均39mm)の種苗が39万尾生産されました。



図1 マコガレイ稚魚

種苗の放流

生産された種苗は、令和3年4月22日と23日に稚魚の成育に適した静穏な砂浜域である阿字ヶ浦海岸と砂泥底である常陸那珂港内を選定し、まず約35万尾を放流しました(図2、3)。

種苗は平均全長39mmと小さいため目印として外部標識をつけることはできません。そのため、頭の中にある耳石という組織に標識を付けています(図4)。今回は、約9.2万尾の種苗に標識を付けて放流しました。

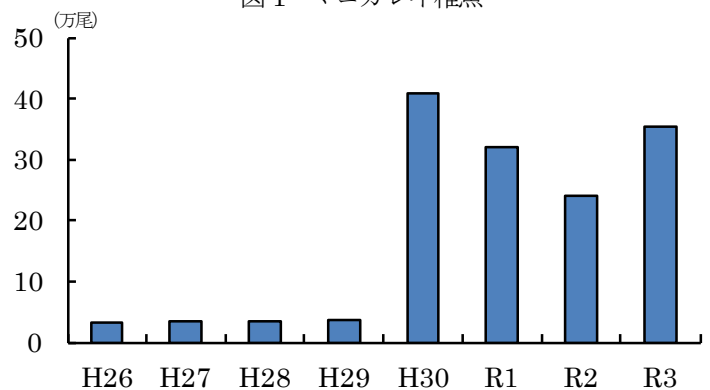


図2 年度別のマコガレイ種苗の放流尾数

種苗の成長と追跡調査の実施

マコガレイは1年で15cm、2年で25cm、3年で30cmほどに成長します。今年放流した種苗は2年後に25cm程に成長して漁獲され始めます。水産試験場ではこの頃のマコガレイに焦点をあてて、放流した種苗がどの程度漁獲加入してくるかを調べることにしています。

今後ともマコガレイの調査にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



図3 放流作業の様子

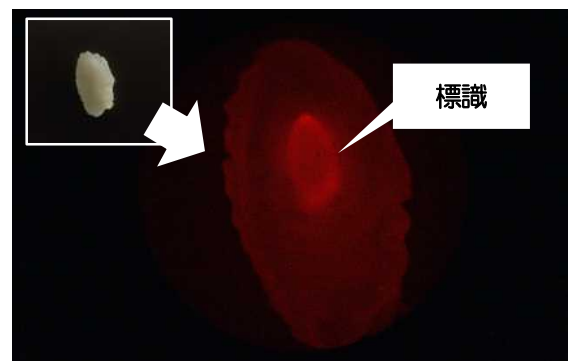


図4 標識が付いたマコガレイ耳石
 (標識付け後、2年間飼育した個体)

(定着性資源部 遠藤 友樹)

【次回予告】 R3.6.11 発行の水産の窓は、「6月の海況と今後の予測」を予定しています。